

令和5年度ボランティア・市民活動団体の実情に関するアンケート調査報告書 (概要版)

1. 目的

清瀬市内で活動する団体の活動状況を把握するとともに、団体のニーズに応じた取り組みや、協働による取り組みを推進するにあたり、検討資料として活用するために実施する。

2. 調査対象

きよせボランティア・市民活動センター登録団体、その他清瀬市内でボランティア・市民活動団体で、センターで活動状況を一定程度把握し連絡が可能な99団体に行う。

3. 調査方法

質問紙を郵送又はEメールの添付により依頼

4. 調査期間

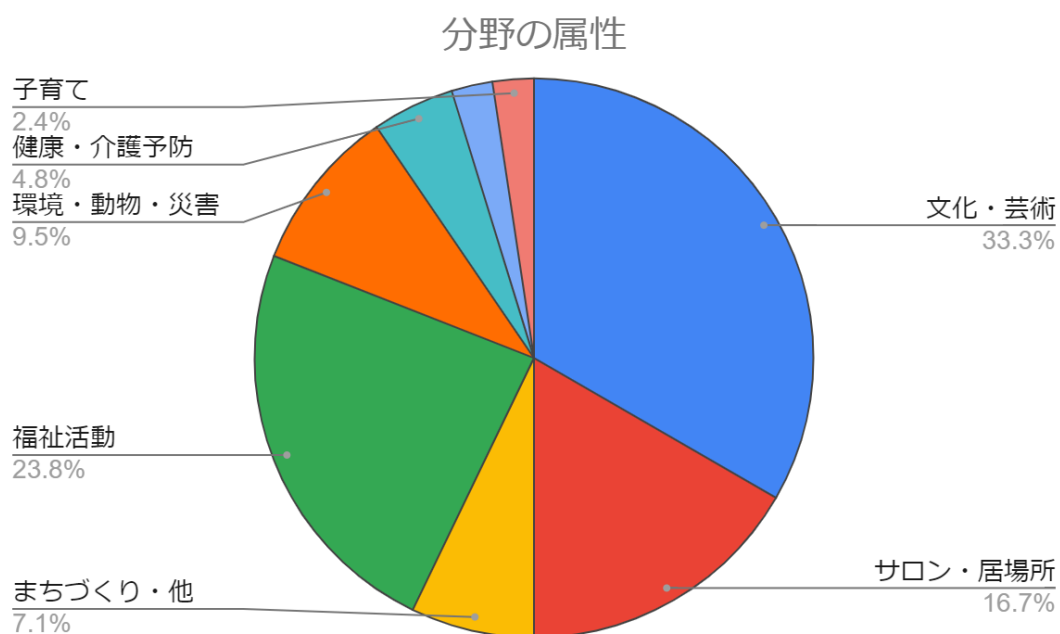
令和5年5月18日(木)～6月1日(木)

5. 回収結果

41団体(41.4%)

	調査依頼	回答
法人格あり	8	1
任意団体	91	40

6. 回答団体の属性

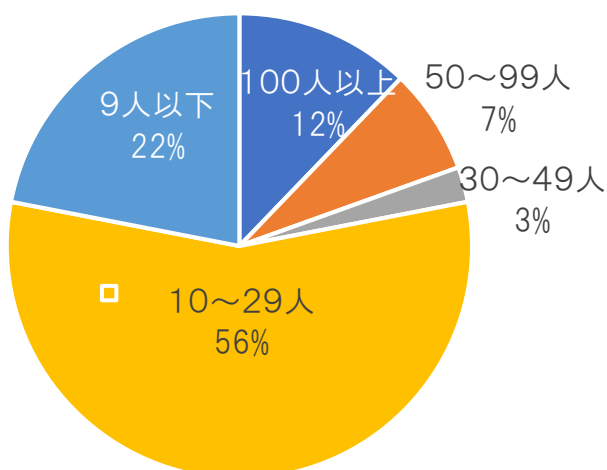


7. 調査の詳細

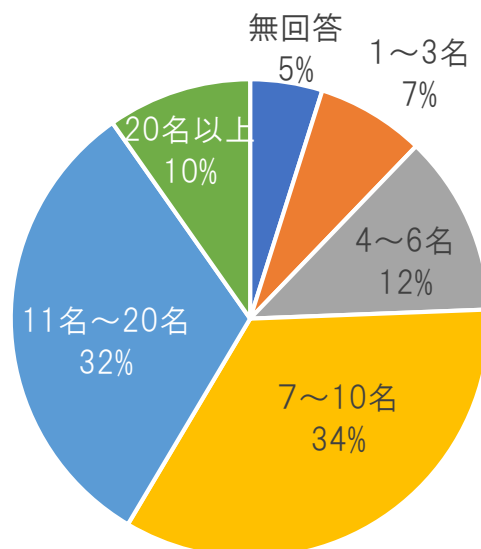
問1 団体のメンバー構成を教えてください。

(1) 団体の構成

①団体の会員数

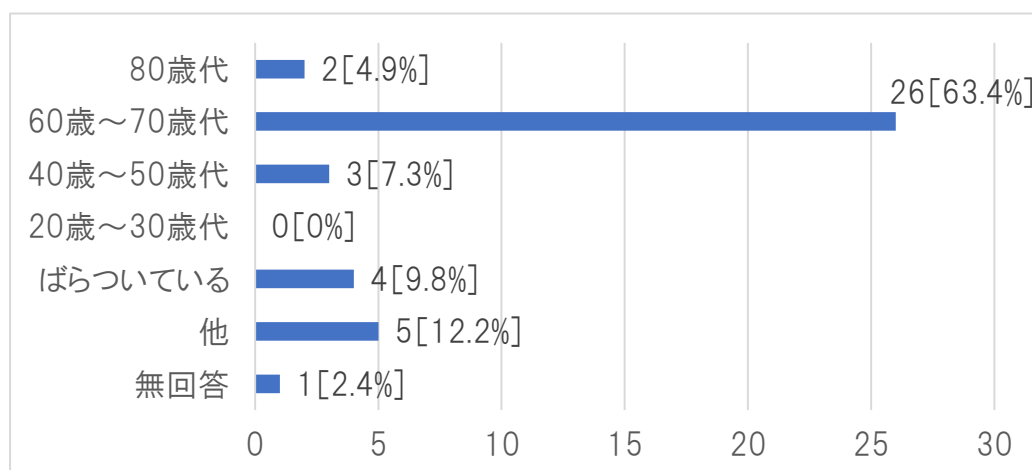


②主要な活動や運営に関わる人数



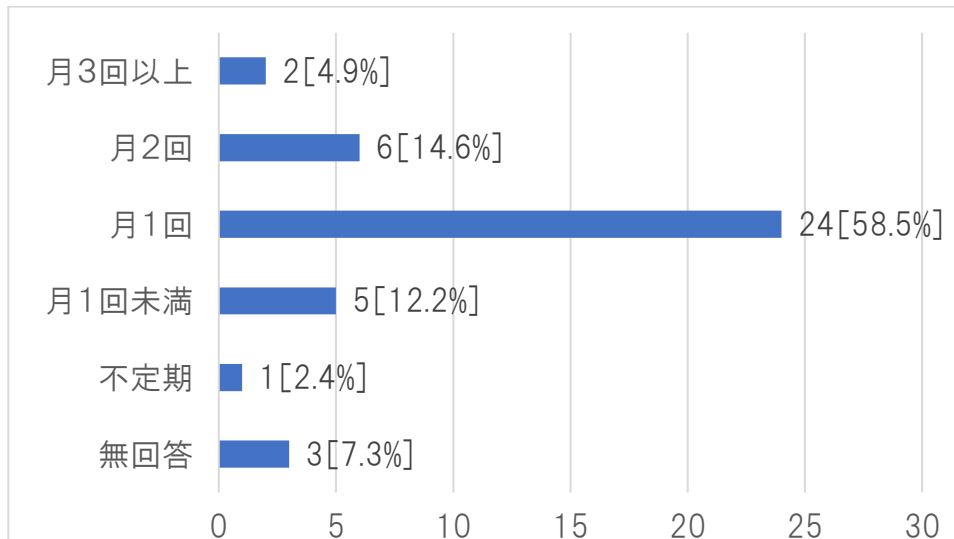
団体の規模と其中で会の活動や運営に力を注ぐ方の大まかな割合を把握するための項目。回答団体の平均会員数は37.9人であり会員数自体は100名を超えるところも複数あり。10～29名の会員数で過半数、29名以下で75%以上を占める。活動や運営の主体は10名以下で行われていることが多い。

(2) 団体の活動を担っているのは、主にどのような年齢層が中心ですか。



60歳代以上の方が活動の中心を担っていることがうかがえる、その他と回答した団体も70・80歳代が主体。

問2 メンバー間の定例会の開催状況について教えてください。



月1回開催が圧倒的に多い。質問票では具体的に実施曜日や時間帯を確認しているが、月2回以上のところでは曜日や時間帯を変えているところが多く、多様なメンバーの参加のしやすさなどを考慮しているとみられる。

問3 団体によってはメンバー間の連絡や情報共有に苦慮しているという声があります。

連絡や情報共有で工夫していることがあれば教えてください。(自由記述)

1. 大別すると以下のいずれかの方法をとっている。

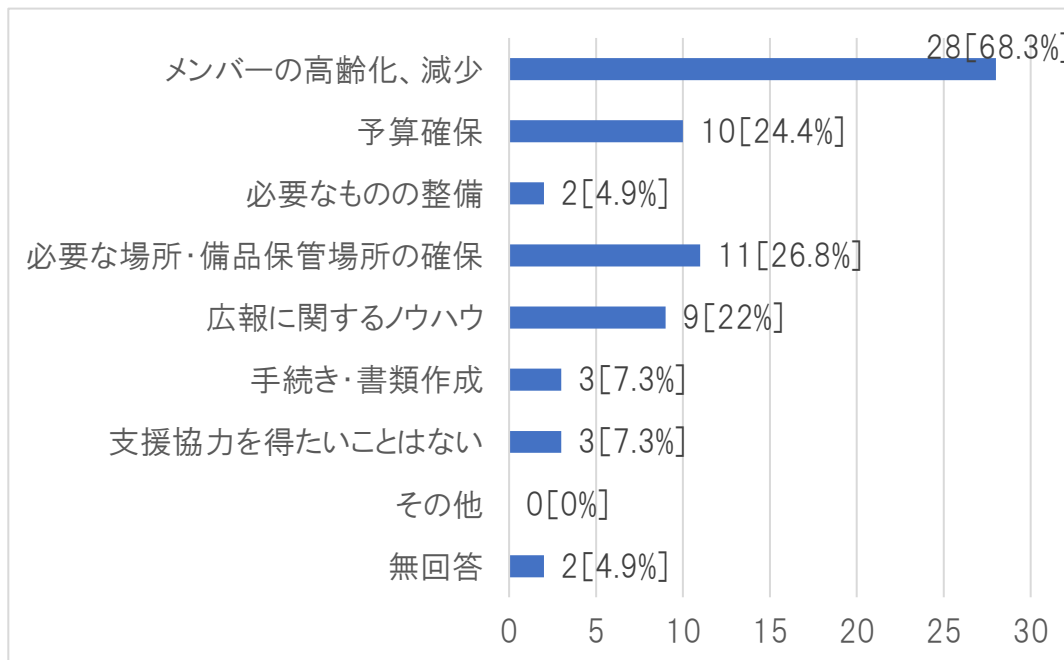
- (1) 併用型 (LINE Eメール 電話 その他 SNS 書面等の複数ツール使い分け)
- (2) グループライン若しくはEメール
- (3) 電話での連絡網

2. 工夫している点 (一部抜粋)

- ◇毎月の活動予定は書面で配布し、活動の場合は LINE・メールで配布し、受け取れない方は電話で連絡を実施
- ◇急ぎ決定が必要なことなどは主要メンバーのみで LINE 連絡 開催日程などの通常連絡はメンバー全員にメール連絡 メール不使用者にはショートメール LINE 以外は原則返信不要としている
- ◇緊急連絡は Eメールの人、電話連絡の人それぞれ使い分けています 欠席の場合はメール又は手紙にして届けています
- ◇LINE が使えない人には、Eメールするが、気が付かないようで電話している
- ◇運営委員 15 人を親として、委員の下にすべての会員が子、孫会員として連絡網を構築。これがすべてに機能していると考えます

LINE などのツール活用が目立つ一方、使えない人向けに大学生が教えたり、複数の手段を組み合わせるなどして情報共有を図ろうとしているところも少なくない。電話などでも連絡網を複数に分けるなどし、連絡調整などの負担を軽減しつつ確実に情報を届けるなどの工夫もみられる。

問4 活動の上で課題と感じていることはありますか。(複数回答可)

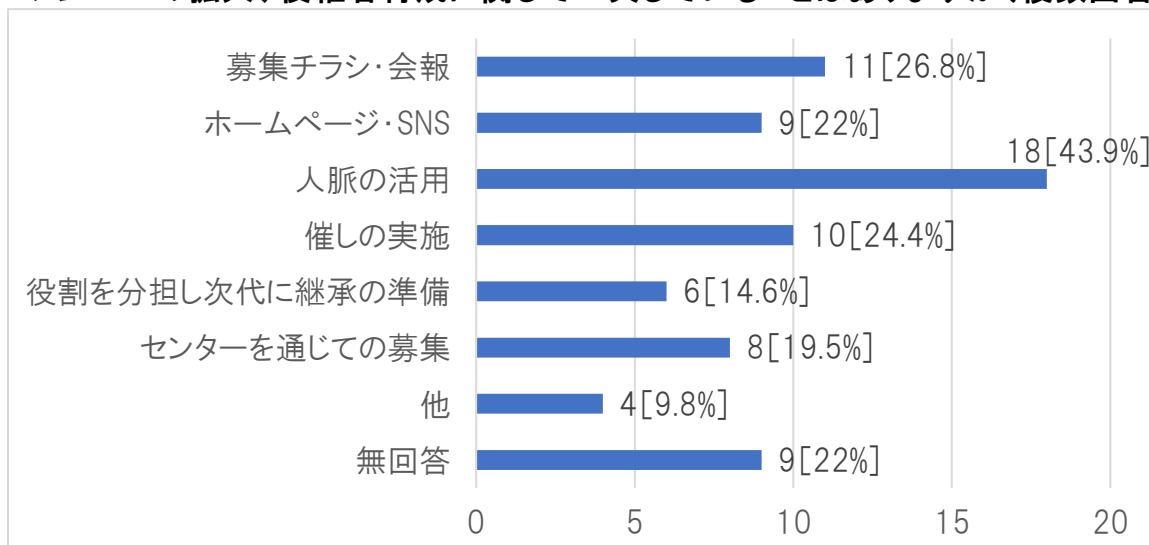


【回答の一部抜粋】

- ◇高齢による退会、新規会員がなかなか入ってこない →会費収入の減少
- ◇備品の保管場所
- ◇市の公共施設再編計画がこのまま進めば、折角の良い場所がなくなってしまう
- ◇SNS 投稿する余裕がない 周知を手伝ってほしい
- ◇HP や SNS などを利用できないため広げられない
- ◇リーダーの担い手不足、自発的・積極的に動ける人材

高齢化・メンバー減少に悩む団体が圧倒的に多く、会費収入の減少につながっている場合もある。次いで場所に関する問題も多く、今後の活動場所の確保への不安や活動備品の保管場所に課題を抱えているところも相当数ある。また、WEB を通じた広報の必要性を感じつつも、スキルの不足により進められない実態も垣間見られる。

問5 メンバーの拡大、後継者育成に関して工夫していることはありますか(複数回答可)

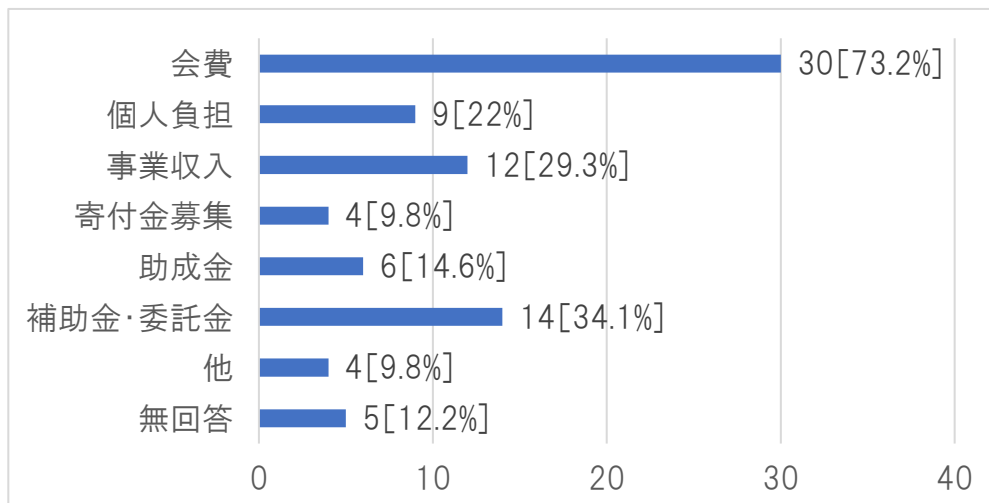


【自由回答の一部抜粋】

- ◇チラシ、会報等はタイムリーに改定するようにしている
- ◇公式 LINE アカウント取得→チラシに掲載→利用者が増えた
- ◇現スタッフからの紹介、元利用者の採用
- ◇観察会や講演会を通じた広報

半数近くの団体が人脈を活用し、身近な接点を大事にしていることがうかがえる。市報等で反応がないという反面、チラシに LINE のアカウントを記載したところ利用者が増えたとの例もみられる。催しでの市民との接点づくりなども有用。

問6 会の予算確保に関して行っていることはなんですか(複数回答可)

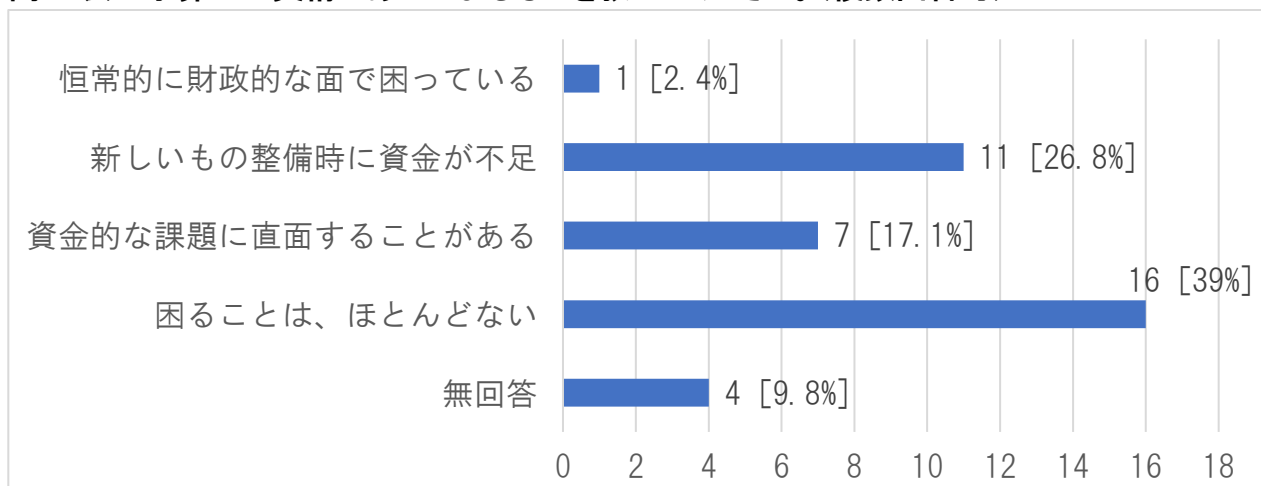


【自由回答の一部抜粋】

- ◇コロナ禍での助成金で PC 購入
- ◇水泳・リハビリなどの参加費
- ◇バザー収入

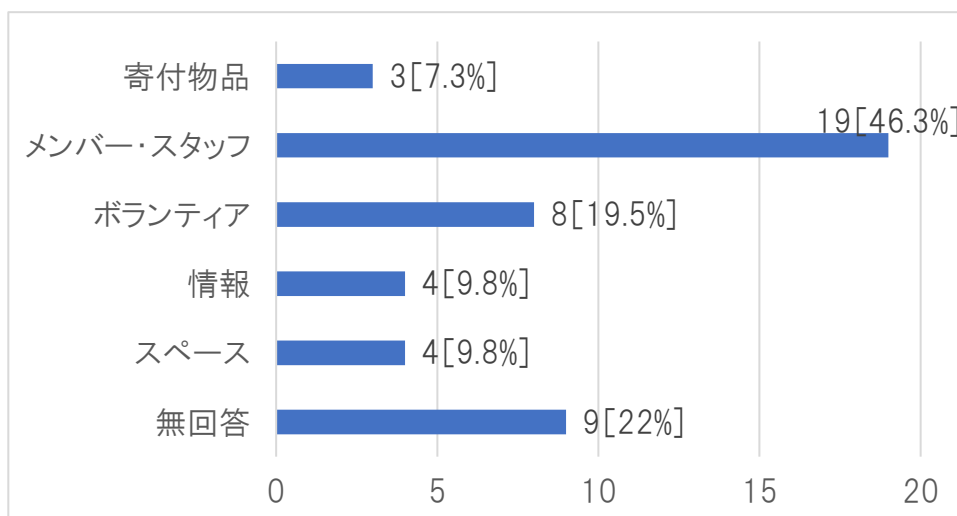
73.2%の団体が会費を財源にするなど、会員の力が市民活動の根幹になっている。助成金・補助金の活用やバザー等で自主財源の確保に努めている団体がある一方、22%の団体で個人負担も生じているなどの課題もみえる。

問7 会の予算上の実情であてはまるものを教えてください。(複数回答可)



恒常的に困っている団体は1団体のみだが、臨時の資金需要があったときに課題を抱えるところが半数近くを占める。

問8 地域の方から広く募りたいものはありますか。(複数回答可)

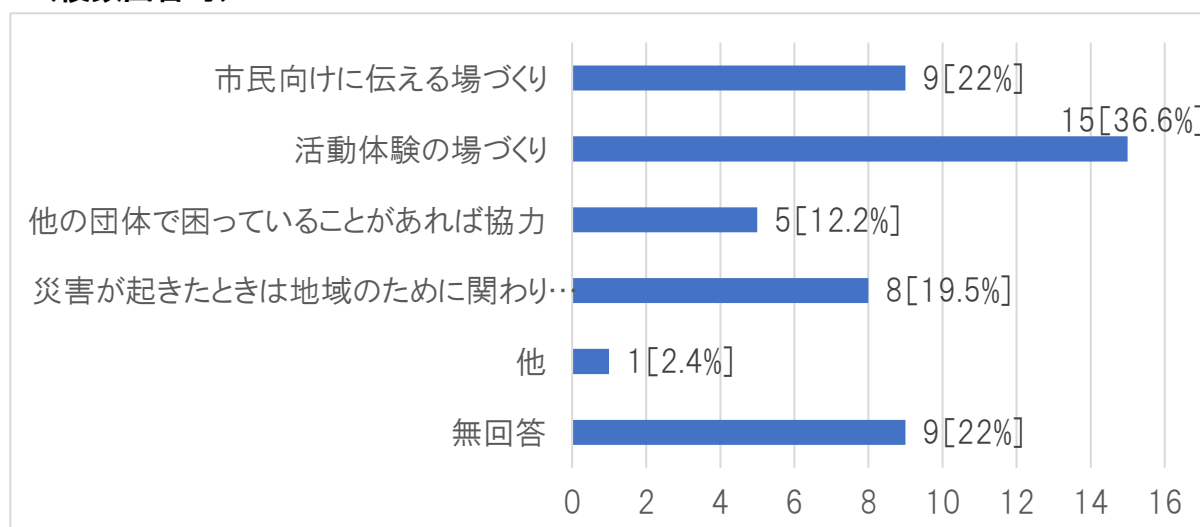


【回答の一部抜粋】

- ◇食材、オーブン、遊具などの寄付品があるとよい（子ども食堂・居場所など）
- ◇それぞれの活動に関する意欲のある方、経験者等の人材
- ◇得意なことがある人あれば協働創造できるとよい
- ◇若い人を
- ◇活動に有益な情報（例：猫、餌やりさん、視覚障害者に関する理解に役立つ情報）
- ◇保管場所

メンバー・スタッフを求める声が多く、活動を支えるボランティアを募りたいという回答と合わせると 65.8%にものぼる。情報やスペースなどをあげる団体は少ないものの、活動維持や目的達成のために必要としている様子が伺える。

問9 普段行っている取り組みのほか、どんなことであれば地域貢献ができると思いますか。(複数回答可)



【回答の一部抜粋】

- ◇市民に伝える場として、高齢者の体力づくりと AI を使った歩行解析、飼育方法、視覚障害者への音訳・理解、呼吸法等お伝えする会、体験はたおり等
- ◇活動体験の場として、アレンジフラワーづくり、発声練習、日本語教室等
- ◇災害が起きたとき、炊き出し、避難所、聴覚障害者支援、同行避難所、外国人支援

市民に伝えたり、体験の場を設定したりであれば 6 割近い団体が何らかの力になれると考えている。災害時も団体の強みを活かした支援できる団体が約 2 割ある。

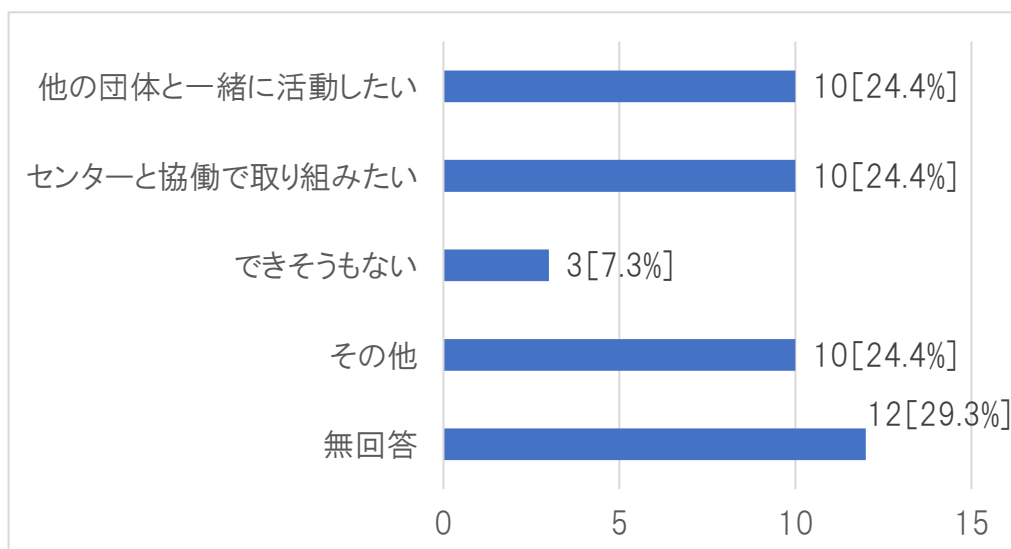
問10 これまで、他の団体(活動団体、企業、商店、農家、学校など)と一緒に取り組みを行ったり、協力して実施した取り組みはありますか。あれば、取り組みの内容を教えてください。

【回答の一部抜粋】

- ◇学校の総合学習や環境学習に協力
- ◇他の子ども食堂とハロウィンイベントの実施
- ◇市のイベントや NPO 法人の取り組みに参加、協力
- ◇別のサークルと合同で発表会を行った

学校や子ども関連の取り組みへの協力が目立つ。また、地域のイベントへの協力や普段のつながりを活かした取り組みなども多く見受けられる。

問11 他の団体(活動団体、企業、商店、農家、学校など)と一緒に活動や協力を得ていきたいことはありますか。(複数回答可)

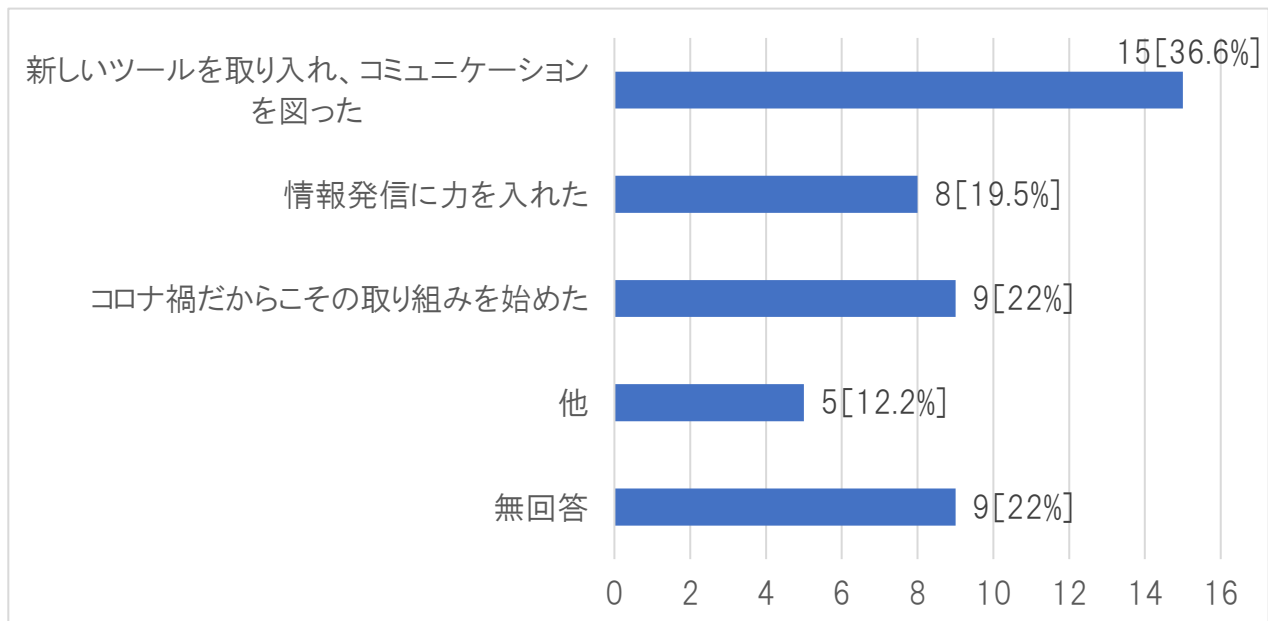


【回答の一部抜粋】

- ◇NPO 法人、当事者団体、社会福祉法人と協力して活動継続させたい
- ◇子ども関係や音楽関係の取り組みであれば協働できる
- ◇夏の体験ボランティア、ボランティア講座などをセンターと協働で取り組みたい
- ◇今まで経験はないが機会があれば関わりたい

他の団体との協働を望む声とセンターとの協働を望む声が同数。センターとの協働では、講座や体験機会づくりなどで力を得られればとの声がある。その他と無回答の割合が他の設問よりも高く、イメージがつかない部分や機会がこれまでなかった団体もあると推察される。

問12 コロナ禍の中、団体運営で工夫したこと・新しい成果はありましたか。(複数回答可)



【回答の一部抜粋】

- ◇SNS を新たに開始
- ◇ローカル TV、ラジオ パネル展を活用し情報発信
- ◇すべての会員あてに書面で活動内容を発信した
- ◇コロナでも、スタッフを含めて高齢者が孤立しないように活動を継続した
- ◇子ども食堂のオープン、お弁当配達の開始

新しいツールを導入し、メンバー間相互のコミュニケーション確保を図り活動継続をにつなげたところが多い。子ども食堂やサロンなどの居場所活動では、コロナ禍だからこそ活動維持が必要と考え、通常とは形を変えて活動を続けたところが目立つ。

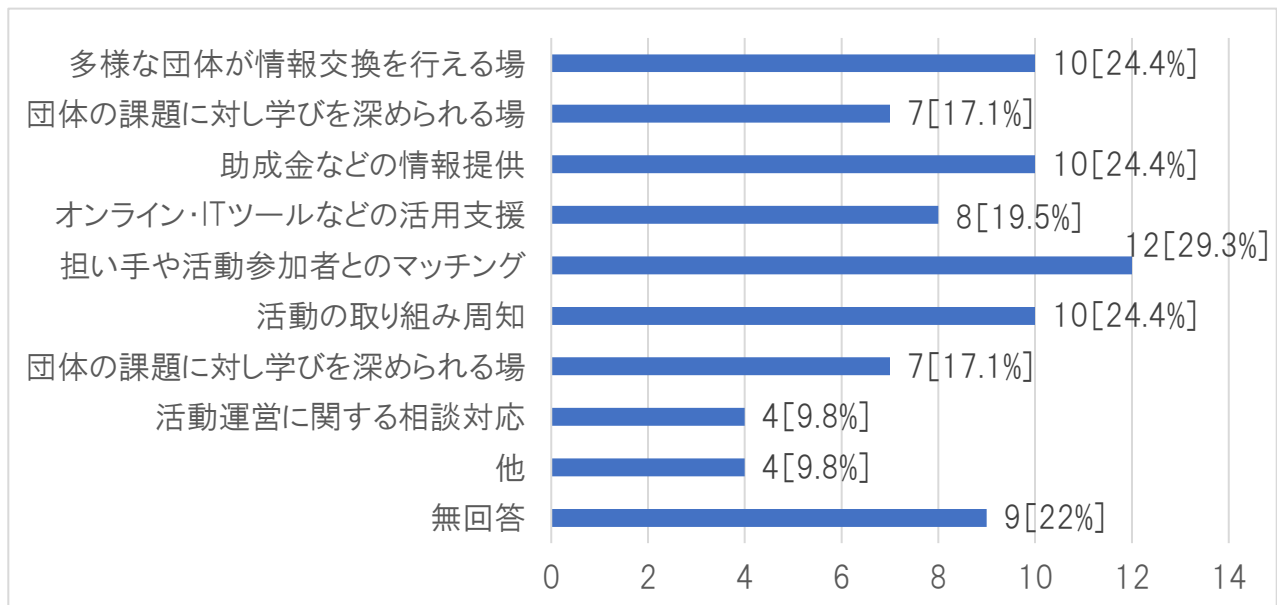
問13 コロナ禍に関係なく、この2～3年であった良かったこと・新しい成果などありましたら教えてください。(自由記述)

【回答の一部抜粋】

- ◇小学校の環境教育授業に取り組み、教師や PTA など新たな結びつきが生まれた
- ◇活動が地域に広く認知されるようになった。また、以前よりも自発的なボランティアが起こされた
- ◇可能な限り継続して実施できたことでスタッフも増員できて、引き続き元気で活動できているし、参加者も継続して参加している人も多く、また新規の人も誘い合って積極的な参加に
- ◇活動が十分に行えない中、運営委員の活動とチームワークで発足後最多の 120 名の会員を維持していること
- ◇発表として市民文化祭に参加した。これまで交流のなかった方たちと知り合えたサークルの存在を知ってもらったきっかけができた

活動を継続していく中で、メンバーや参加者が増えたということが多数みられる。また、活動継続による「認知されてきたこと」「新しいつながりができたこと」「新しいニーズへの対応」といった成果へつながったことも力になっている。

問14 きよせボランティア・市民活動センターの取り組みとして、さらに期待したいことはありますか。(複数回答可)



【回答の一部抜粋】

- ◇情報交換として他団体の活動状況を知る場が時々必要
- ◇専門家も交えた場 年1回くらい学びあえるとよい
- ◇清瀬市の補助金の情報などを知りたい
- ◇フリーWIFIを導入希望
- ◇大学生や若手との交流会を実施してほしいです
- ◇情報共有を広げてほしい
- ◇子ども食堂を周知してもらう情報ペーパーを作成・配布してほしい

特別際立った傾向はみられなかったものの、複数回答可とする他の設問に比べ多くの選択肢が選ばれた。団体間の情報交換、オンライン・ITツールの活用支援、人材のマッチング等、センターがつなぎ目となることへの期待は大きい。

問15 ボランティア・市民活動の取り組みに関するご意見や期待することがあれば、遠慮なくご記入ください。(自由記述)

【回答の一部抜粋】

- ◇市内の様々なボランティア活動が広く市民に伝わる広報活動をしてほしい。
- ◇「今後の生き方と生涯学習について」の講座を実施してボランティア活動の登録を勧め、登録者を増やしていただきたい。自身の経験から言ってボランティア募集ではまずボランティア活動について理解できていないので登録者が少ないと思います。
- ◇今後団体間交流の場を作ってください。新しい情報を得る場を。